

産地パワーアップ事業

もうかるブランド推進課

農林水産総合技術支援センター経営推進課

「大津松茂農業協同組合」のだいこん共同選別施設整備概要

【産地パワーアップ事業について】

水田・畑作・野菜・果樹等について、平場・中山間地域など、地域の営農戦略として定めた「産地パワーアップ計画」に基づき、意欲ある農業者等が高収益な作物・栽培体系への転換を図るための取組を全ての農作物を対象として総合的に支援する。

取組メニューは生産技術高度化施設、集出荷貯蔵施設、農産物処理加工施設等の共同利用施設の整備や資材導入で、補助率は1/2以内。

【事業の狙い】

当地域は砂地畑を活用した「かんしょ」「だいこん」のブランド産地であり、表作に「かんしょ」、裏作に「だいこん」という作付体系をとっている。「かんしょ」では収穫機の高性能化が進み1戸当たりの作付面積が拡大しているが、「だいこん」は表作「かんしょ」の拡大による労力競合により作付面積の拡大が進んでいない。

このため、「だいこん」の共同選別施設の処理能力を高めるとともに、「だいこん」の収穫作業の受託組織を整備し、作付面積の拡大、適期収穫による品質向上、高単価時期の作付拡大を図り、産地の安定につなげる。

【事業の概要】

単位：千円

施設区分	補助率	事業費	補助金
集出荷貯蔵施設	1/2	226,715	104,960

集出荷貯蔵施設

- ・建物 1棟 1,621.51㎡
 - ・バケット式カメラ形状選別機，洗浄機，梱包機，製箱機 一式
- 年間処理量：1,293 t
設置場所：板野郡松茂町中喜来字小張

【取組内容】

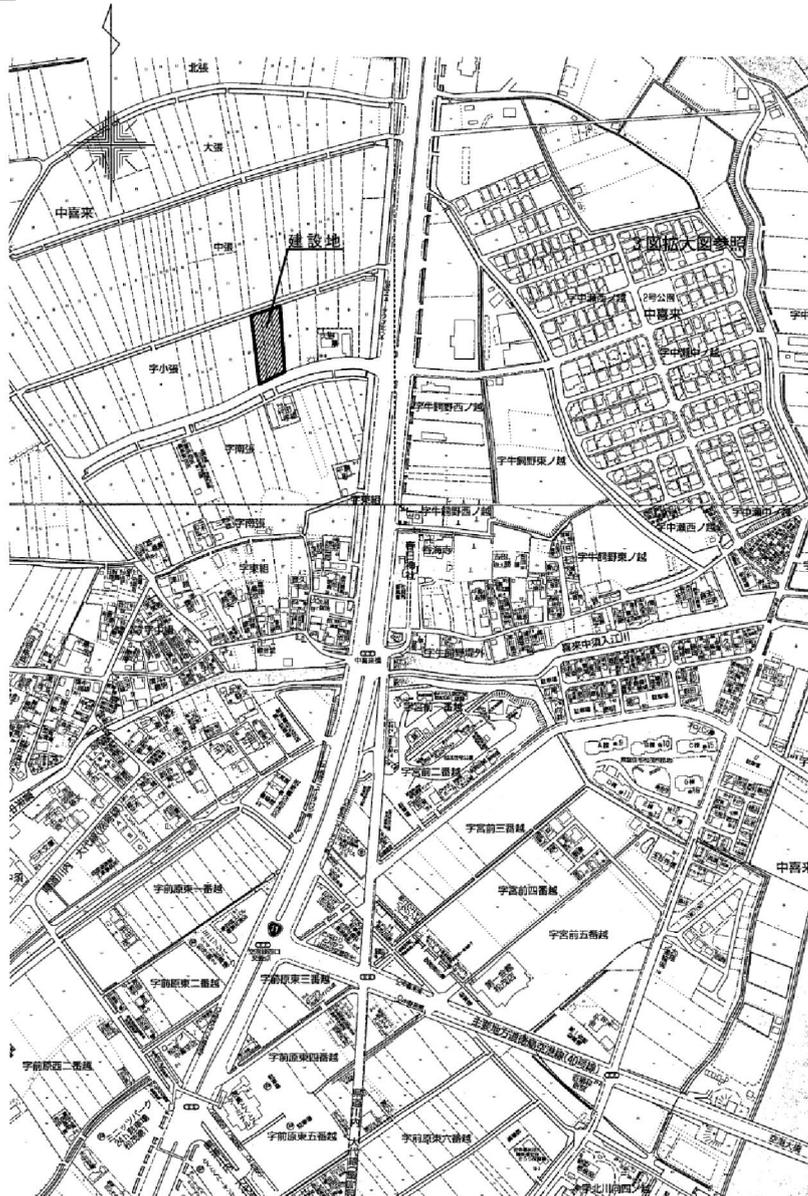
- ①集出荷作業の効率化による安定出荷
出荷量：(H27) 6,536t → (H31) 7,369t
- ②JAの収穫作業の受託による作付面積の拡大
栽培面積：(H27) 87.19ha → (H31) 98.25ha
- ③高単価が望める時期の作付拡大による有利販売
単価：(H27) 69.9円/kg → (H31) 72.5円/kg

【成果目標】

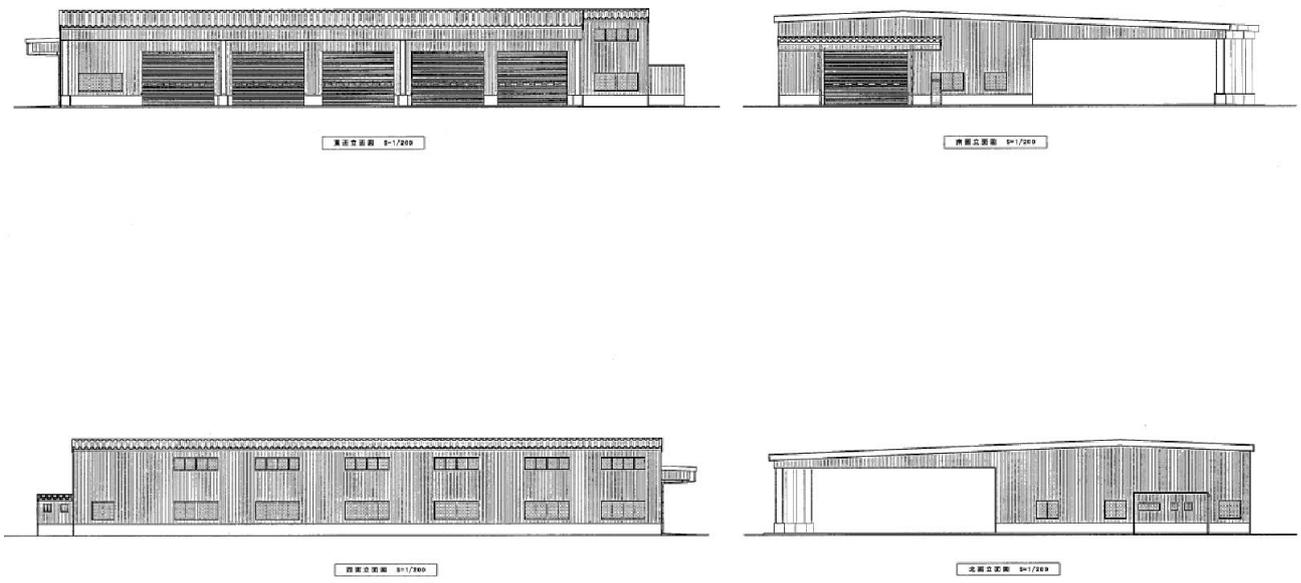
販売額の10%以上の増加

現状 (H27) 456,635千円 → 目標 (H31) 534,063千円

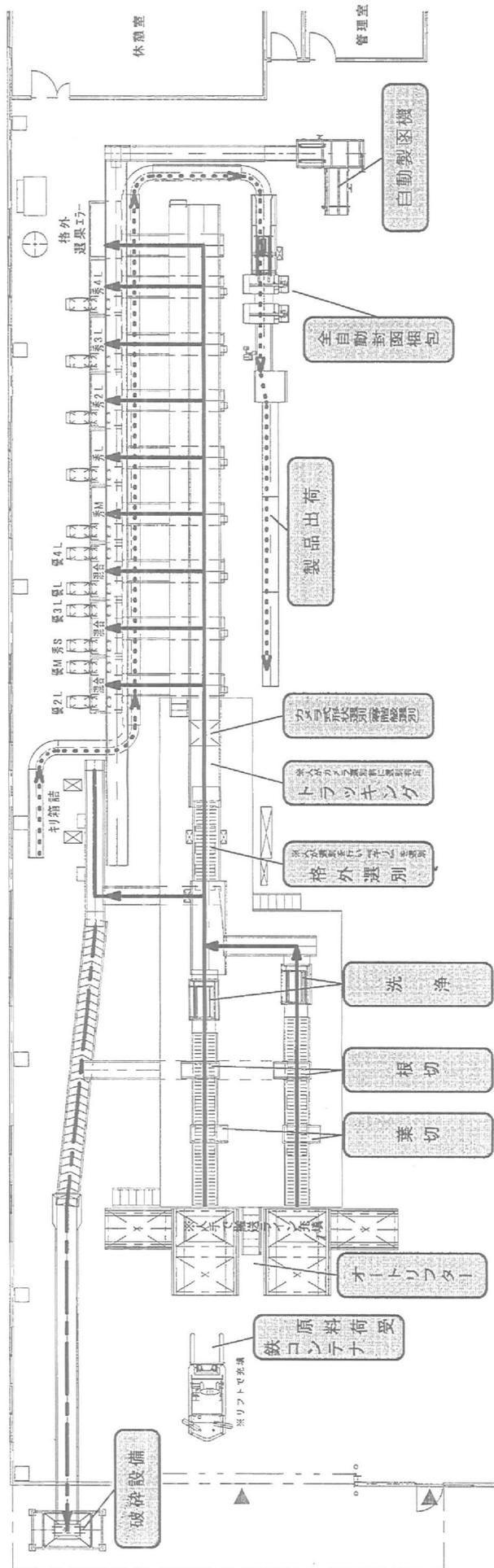
○位置図



○施設立面図



○選別設備図



.....	製品 (箱詰後)
————	原料 (大根)
----	残渣 (根、葉)

○施設写真



「かいふ農業協同組合」のきゅうりハウス整備概要（養液栽培）

【事業の狙い】

海部郡の「促成きゅうり」は、冬期の日照量が多い自然条件を生かし、県下では栽培面積、生産量ともにトップの産地として位置付けられているが、近年は高齢化による担い手不足が課題となっている。

このため、JA、町、県が一体となった推進組織を設立し、移住就農等を希望する若者の育成を進める「きゅうりタウン構想」の実現に向け、当事業を活用して低コスト耐候性ハウスを整備し、移住就農者等に貸出すことで「促成きゅうり」の新たな担い手を確保し、生産拡大を図り、産地強化による地域の活性化につなげる。

【事業の概要】

単位：千円

施設区分	補助率	事業費	補助金
生産技術高度化施設	1 / 2	167,400	77,500

生産技術高度化施設

- ・低コスト耐候性ハウス 4棟 6,204m²
- ・養液栽培装置 一式
- ・複合環境制御装置 一式

年間生産量 182t

設置場所 海部郡海陽町野江地区

【取組内容】

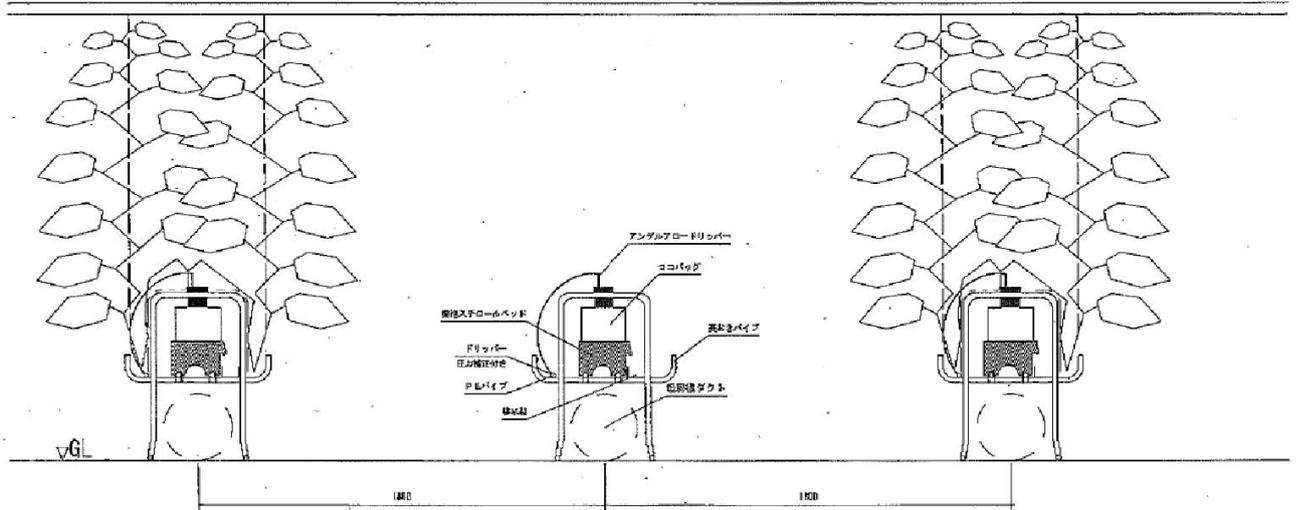
- ①低コスト耐候性ハウスの導入による収穫期間の延長
栽培期間：(H28) 10～6月 → (H32) 10～6月, 7～9月の年2作
- ②養液栽培と複合環境制御による高収量栽培の取組
単収：(H28) 22t/10a → (H32) 29t/10a
- ③担い手の育成による産地拡大の取組
「海部きゅうり塾」によるU I Jターン就農者への技術サポート等

【成果目標】

産地の販売額の10%以上の増加

現状 (H28) 313,543千円 → 目標 (H32) 415,018千円

○栽培ベンチ詳細図



(参考) きゅうりタウン構想

きゅうりタウン構想

～ 促成きゅうりを核とした地域創生を目指して～

① 産地面積 5.6 ha → 10 ha ② 収量30t/10a穫り ③ 所得：1000万円以上(30aの場合)

現状

- ・ 県内一の促成きゅうり産地。
- ・ 栽培技術の高い産地 (収量20t/10a以上の栽培者が半数以上, 32t/10aの篤農家の存在)
- ・ 収益性に優れている (所得：690万円 (30aの場合) ※農業支援センター調べ)

【問題点】

- ・ 担い手不足や高齢化等の要因で近年、栽培面積が減少し弱体化が進行。

【課題】

- ・ 新規就農者の確保・育成によるかいふ産地の再生。
- ・ 更なる栽培技術向上により若者に魅力をもたせる経営の確立。



【10年後のめざす姿】

- ・ 安定ある全国有数の産地 (栽培面積: 10ha)
- ・ 栽培技術力の日本一 (収量: 30t以上/10a)
- ・ もうかるかいふきゅうり経営 (所得: 1000万円)
- ・ 若手就農者の増大による産地の活性化

次世代型園芸技術の開発 複合産品技術の導入



2ヶ月休暇でかいふ地域に人を呼ぶ。

☆ 海部きゅうり塾 ☆
(新規就農者の受入れ体制確立)

- ・ 技術サポート……………里親制度, 30t/10a穫りマニュアル作成
- ・ 労力サポート……………新たな労力支援システムの確立
- ・ 民間、大学との連携……………若手農業者に対する魅力ある栽培方式の開発



海部次世代園芸産地創生推進協議会

「かいふ農業協同組合」のきゅうりハウス整備概要（土耕栽培）

【事業の狙い】

海部郡の「促成きゅうり」は、冬期の日照量が多い自然条件を生かし、県下では栽培面積、生産量ともにトップの産地として位置付けられているが、近年は高齢化による担い手不足が課題となっている。

このため、JA、町、県が一体となった推進組織を設立し、移住就農等を希望する若者の育成を進める「きゅうりタウン構想」の実現に向け、当事業を活用して低コスト耐候性ハウスを整備し、移住就農者等に貸出すことで「促成きゅうり」の新たな担い手を確保し、生産拡大を図り、産地強化による地域の活性化につなげる。

【事業の概要】

単位：千円

施設区分	補助率	事業費	補助金
生産技術高度化施設	1/2	184,972	85,635

生産技術高度化施設

・低コスト耐候性ハウス 5棟 9,036㎡

年間生産量 244t

設置場所 海部郡海陽町穴喰地区

【取組内容】

①低コスト耐候性ハウスの導入による収穫期間の延長

栽培期間：(H28) 10～6月 → (H32) 10～7月

②担い手の育成による産地拡大の取組

「海部きゅうり塾」によるU・I・Jターン就農者への技術サポート等

【成果目標】

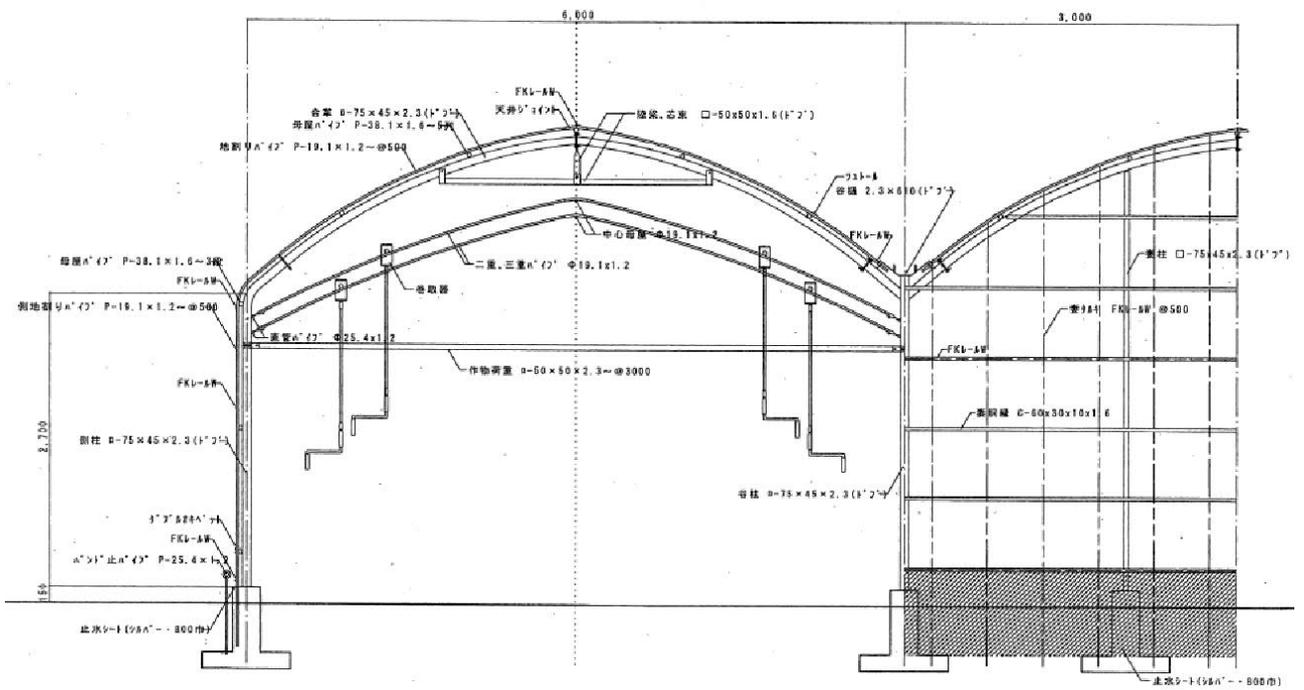
産地の販売額の10%以上の増加

現状(H28) 313,543千円 → 目標(H32) 415,018千円

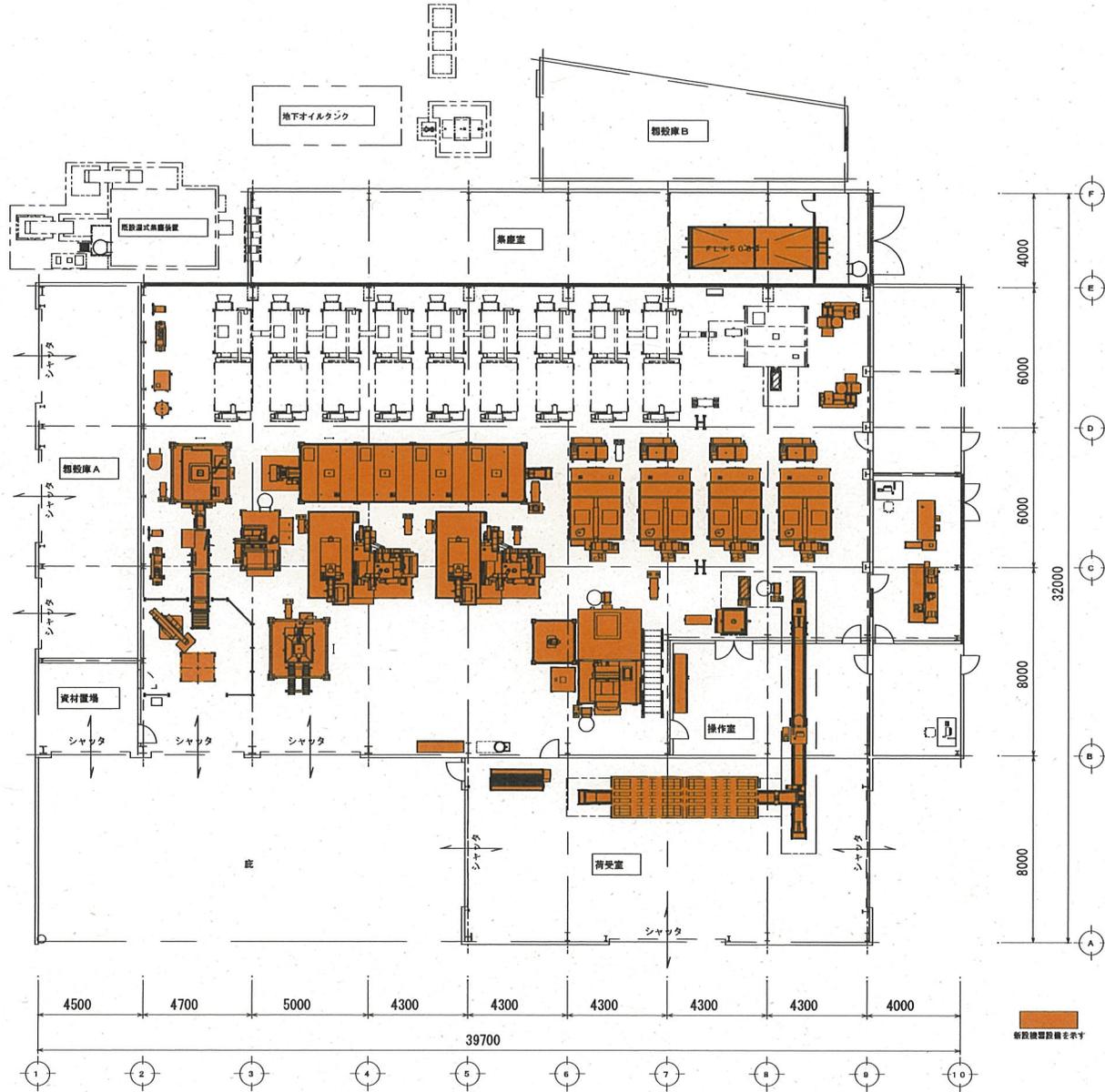
○位置図



○施設立面図



〈変更後〉



図名	設計者	承認者	作成者	検査者	縮尺	枚数	枚数
#12122490195002	設計者事務所 設計	設計者事務所 設計	設計者事務所 設計	設計者事務所 設計	1/200	1/200	1/200
日付	平成30年 1 月 1 日	1/200	1/200	1/200			
内容	新設機器設備を示す	新設機器設備を示す	新設機器設備を示す	新設機器設備を示す	1/200	1/200	1/200

Google 1 A板野郡本所

